

## つき BON の「誤解をおそれず言わせてもらえば」

めざす会幹事 大津寄章三

### 拉致について

愛児や肉親が「神隠し」に遭ったとしたら、平穏でいられる人間などこの世におるまい。

食事ものどを通らず夜も眠れず寝込んでしまうかもしれないし、ひどければ心を病んで寿命を縮めてしまうであろう。

これが身代金要求を伴う誘拐というのであれば、まだ解決の糸口は残る。しかしこと拉致に関してはそうではない。動機が判然としないということはつまりどう解決していいかわからないということでもあるし、金銭要求に代わってたちはだかる国境や主権の壁は個人ではどうしようもないほど高い壁である。

主権国家として対応するしかなく、それははっきり言って政府の仕事である。また、社会教育や学校教育の現場では人権尊重について熱心であるが、拉致問題ほど喫緊かつ深刻な人権問題がもしあるというなら、どなたかぜひ教えてほしい。

日米首脳会談で、首相はトランプ大統領に来たる米朝会談に拉致問題を提起するように申し入れたという。幸い「ベストを尽くす」と承諾されたというから（そのかわり通商面ではしっかりバーターされるであろうが）それはそれでよい。どんな手を使おうが生きて被害者を帰国させ、家族の下に戻すことこそ政府の課題である。

かつて金正男が日本観光中に身柄を確保されたとき、当時の田中真紀子というアホ外務大臣は、もめ事になるのはゴメンだとばかりアゴアシ付きで彼を北に送り返してしまうというセンスのなさを暴露した。

石原都知事はあきれ、「非公式でもいいから拉致被害者と身柄を交換するという手はなかったのか」と嘆いた。そうであろう。法治国家であるのだからそんな超法規的な裏取引や寝技は使えない、というならそれはただの官僚であって政治家の思考ではない。とりわけ外交は「立ってよし寝てよし、関節ワザもかける」のオールラウンダーでなくては務まらないのである。

今度は外国の大統領頼みというわけである。確かに背中に火のついた北とすれば、たかだか少数の日本人（それも拉致してきたことは自分の父親がすでに認めている）を帰国させるだけでトランプのメンツを立て、日本との関係も好転するのであれば悪い話ではない。被害者家族会が色めき立つはずである。

しかし、よく考えてみると自国民を取り戻すのに大国頼みというのもなさけない話



である。本来なら特殊部隊を送り込み、子豚ちゃんもしくは被害者全員に匹敵するような大物（例えば妹のキム・ヨジョン）の身柄を確保した上で交渉のテーブルに着かせる等の戦略があつてしかるべきではないか。

他国ならきっとそうしている。みすみす被害者の場所も名前も犯人もわかっているのに何十年も手をこまねいていた、ということになれば政権はもたないのである。

むろん救出を最優先せねばならないし、救出部隊の練度や成功の可能性と危険も考慮せねばなるまい。しかし軍隊の論理というのには必ずしも命の数という優先順位だけがあるのではない「プライベートライアン」や「ブラックホールダウン」という米映画を見てもわかるように、一人の国民の命（それが民間人であっても）を救うためには複数の兵士が落命してもやむを得ないという作戦もある。

よく改憲反対の人々は「自衛官の命を危険にさらしていいのか」とあたかも彼らの身の上を慮ったかのような発言をするが、こういうのを“おためごかし”という。もともと危機に面しては人の命の平等などありはしない。ましてや武官と民間人では比べものになるまい。自説のためなら日頃何とも思っていない（どころか唾棄しているかもしれない）組織の一員にまで博愛の情を持っているかのようにふるまえるという彼らの厚顔ぶりには正直辟易してしまう。

さて、この宥和ムードの中で一気に拉致解決に拍車がかかるのであろうか。モリ・カケなんぞより私にはそっちのほうがよほど関心がある。

2018/04/19(木) 06:13:30

## 親学一主体変容の教育改革

### 親学講座のお知らせ

#### 親が変われば子供も変わる



親学の理念は、「人間の本性にもとづいて、親が子を導き育て、子は親を見て成長するといった親子の絆の根底に立ち、親としての責任を果たし、人間としての人格の完成を目指す」ことにあります。その一番大切なものは、「親子の愛の絆」であると言ってよいでしょう。

親学は、基本的に、①教育の原点は家庭にあり、親は人生の最初の教師として、教育の第一義的責任を負うことを深く自覚する②胎児期・乳児期・幼児期・児童期・思春期という子供の発達段階に応じ、家庭教育で配慮すべき重点は異なる③母性と父性の役割を明確にするという3つの考えから成り立っています。

ある調査によりますと、家庭の教育力低下を感じている親は68%にのぼり、その原因として「過保護、甘やかせ過ぎ、過干渉の親の増加」「テレビ・映画・雑誌の影響」「自信がない親の増加」「躾や教育に無関心な親の増加」などが挙げられています。また、内閣府の調査では、子供がいる女性の多くが「育児の自信がなくなる」「自分のやり

たいことが出来なくて焦る」「なんとなくイライラする」と答えています。

本来、子を産み、育てることは、親にとって何のものにも代えがたい大きな喜びであり、楽しみであるはずで。子育ては、他者を育てることで自分を活かしていくことにほかなりません。親学を通してその意義と子育ての楽しみを学び直しましょう。

日時：平成30年6月7日（木）19：00～21：00

会場：東温市 川内公民館 3階 第3学習室

講師：杉本哲也先生（一財）親学推進協会講師

テーマ：家庭の教育力を高めるには  
～発達段階の応じた親の関わり方～

受講料：1000円

後援：東温市教育委員会 申請中



次回の講座は8月末の予定でございます。

4月8日（日）の親学公開講座には、親学アドバイザー含め12名のご参加がございました。東温市選出の大西渡県議が第1コマ「親学と道德教育」をお聞き下さいました。

## 血のつながりというタテ糸

昨日はいちばん上の孫の誕生日であった。もう11才になる。

長男が意外に早く結婚したため、私も必然的に早めにじさまの立場となった。半月前に生まれた五番目と一回り近く違うことになる。

それが午後からファミリーでやってきた。5人の孫たちの勢揃いは初めてのことであり、ある意味壮観である。彼女らのすべてに私のDNAが伝わっている。産まれてまもなく養子に出され、一人っ子として育った私ではあるが、ここまで係累が増えたのかと感無量である。

ある意味、こういう幸せのかたちというのものもあるのだろう。子々孫々が増えていく、というのは「本人が生きた」という何よりの証である。何十年後かのちに墓に入る時、私のご先祖に胸を張っていいのかもしれない。

そういうものの見方が次第に薄れていっているのは残念である。



長い時間を紡いでいかねばならない価値観というものは確かにある。子供が不始末をしでかしたとき、対面して叱るのと、共通のご先祖に向かって親子で頭を下げるのでは、その教育効果はまるで違おう。前者は教員でもできるが後者は肉親のみが可能なしつけである。

絆という言葉が今日ほどよく使われる時代もないが（とりわけ3・11以来）、絆にはタテとヨコがある。家族の絆がヨコ糸なら先祖からの血のつながりはタテ糸にほかならない。双方があってこそ人は人としてまっとうに生い育つ。

（大津寄先生ブログより）

# 憲法改正に向けて

大津寄先生の作詞作曲による「憲法改正ソング～好きです日本、われらのKENPO」がユーチューブにアップされています。ピアノ伴奏は山本俊秀さんです。

「ユーチューブ」→「大津寄章三 憲法改正ソング」で検索なさってみてください。

## 〈憲法改正ソング～好きです日本、われらのKENPO〉

むかしむかしそのむかし 長い戦さがありまして  
健闘むなしく 日本は負けた  
やってきたのはマッカーサー コーンパイプにサングラス  
憲法変えろと 上から目線  
※ 好きですニッポン われらのKENPO

あわてたニッポン知恵絞り 明治憲法手直しし  
これでいかがかと 差し出した  
これじゃなんにも変わってへん おんどれわしらをなめとんか  
わかったこうなりや わしらでつくるぜ

集められた24人 みんな憲法わからない  
軍人 弁護士 バイトの女の子  
七日でつくれとムチャ言われ 手当たりしだいにコピーして  
徹夜は続くよ 二月の東京 ※

できた憲法みな英語 見せられ驚く日本人  
鼻息荒いぞ アメリカ人  
おまえらこいつを受け入れにや 天皇（おかみ）の身の上あやういと  
勝者のゴーマン ここに極まる

びびった日本は やむをえず 急いで英文和訳して  
審議に回した 帝国議会  
ほんのひとこと変えるのも わしらの許しがいるのだと  
うしろでにらむは 青い目ばかり ※

国民主権に平和主義 人権尊重あるけれど  
日本の香りは かげもなし  
みんなどこかで見たような 条文・宣言ツギハギし  
ケチャップまぶした あめりかテイスト

さらにのたまうアメリカ人 この憲法はどこまでも  
日本がつくったものとせよ  
下手にバラすとどうなるか かしこい君らはわかるだろ  
だまってうなづく ラジオと新聞 ※

時は流れて70年 世のありさまは変わっても  
一字も変わらぬ わが憲法  
七五三でのこの晴れ着 成人式にも着ていけと  
真顔でおっしゃる じいさまばあさま

丈は胸まで袖は肘 ボタンもしまらずパツパツで  
世界が笑うよ ピエロの日本  
もっと自由に動きたい 歴史に根ざした憲法を  
せめてつくろう われらの世代で ※  
それこそ明日のニッポンの KENPO



# 映画「南京の真実」上映会

## 第1部「七人の死刑囚」

脚本・監督：水島総

製作：映画「南京の真実」製作委員会/(株)チャンネル桜エンタテインメント他

平成30年6月3日(日) 13:00～上映時間164分(開場12:30)

砥部町文化会館 3階 視聴覚室

入場料 1000円 学生 無料

### 南京大虐殺？それでも日本は黙っているのか

南京陥落70周年(平成19年12月13日)を迎え、中国・カナダ・米国等で約10本の南京「大虐殺」映画が製作され、全世界で公開されると言われています。

誤った歴史認識に基づく反日プロパガンダ映画によって、「大虐殺」なる歴史の捏造が"事実"として、世界の共通認識とされる恐れがあります。「情報戦争勃発」とも言えるこの危機的事態に、私達は大同団結し、いわれなき汚名を払拭し、誤った歴史認識を是正すべく南京攻略戦の正確な検証と事実を世界に伝える映画製作を開始致しました。

そしてこの度、全国草莽のみなさまの熱いご支援のもと、極東国際軍事裁判におけるいわゆるA級戦犯とされてしまった7名の最期の24時間を焦点とした第1部が完成。(中略)

日本と日本人の誇りと名誉を守りましょう！

## 良書ご紹介

『お母様大好き』金澤翔子著 出版：ハルメルク

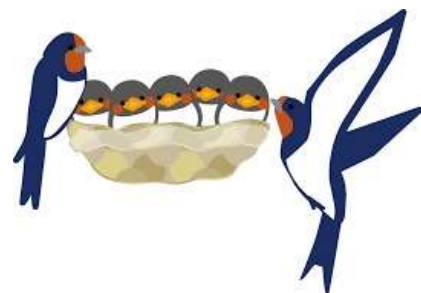
ダウン症の書家の最高に純粋な世界

国体の開会式で、翔子が5メートル四方の紙に背丈より大きい26キロの筆を持って「夢」と書いた。この大筆で何万人もの前で書くのは至難の業。しかし、翔子は、巨大な紙に見事に楷書で「夢」と書いた。せっぱ詰まると不可能と思えることを成し遂げてしまう翔子の不思議の一つ。

その夜の夕食時、「私の後ろにきれいなおばあちゃんがいたでしょ」と言う。私には心当たりがない。よくよく聞いてみるとその方は皇后陛下であった。あのときの翔子の「夢」の字を見てくださっているお姿が、スクリーンに映し出されていた。翔子は天皇陛下も皇后陛下のことをもわからない。しかし、あの観客の中にひととき慈愛に満ちたお姿の皇后さまを見つけ、おきれいと感じたのはすごい美意識。(28ページ)

☆☆☆ 事務局から ☆☆☆

★5月3日(祝)美しい日本の憲法をつくる愛媛県民の会の「憲法 in 愛媛」のちらしが送られてきたのが4月17日(火)です。例年の5月3日の行事はないのかと思っておりました。急ぎ、「な



でしこ通信」73号を急ぎ作成致しました。間に合って届くといいのですが。

★「南京の真実 第3部 支那事変と中国共産党」は、砥部町文化会館45名、東温市中央公民館24名、西条市総合福祉センター23名、伊予市生涯学習研修センター30名、松山市民会館18名。合計140名の方にご覧いただきました。（微々たるものですね。）

★6月3日（日）13時～砥部町文化会館で「南京の真実 第1部 七人の死刑囚」の上映会を致します。コミセンで約300名のご参加を得て上映されてから10年が経ちました。

★大津寄先生が約1ヶ月入院され、4月20日に退院されました。その数日前のブログの抜粋です。

〈入院した翌日、私は未明にふと目が醒めた。カーテンの隙間は少し明るみ、もう夜明けが近いことがわかった。そのとき見あげていた天井の右上の方向から「○○、おまえはまだこっちに来るな」という声が聞こえた（ような気がする）。それは複数の男の声であった。私をそのような下の名で呼び捨てにするのは父と叔父と、今の私の年で亡くなった従兄弟だけである。三人ともすでに鬼籍に入っている。ちょうど彼岸の中日であり、故人の魂がこの世に戻ってくるといわれる日であった。思わず私の目からばっと涙があふれた。大部屋でなければ嗚咽を抑えられなかったかもしれない。次の瞬間急にあたりが少し明るくなった。六時になり、廊下の灯りがともったのである。涙も拭かず、私は今の不思議な体験にじっと浸っていた。あれは錯覚だったのだろうか。それとも何かのメッセージだったのだろうか。即日入院となったとき、記憶のときれといいひどいよろめきといい、さすがの私も万一のことを覚悟した。〉

ご無事に退院されてほんとうにようございました。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。長期会員の方は〈年〉のみの期間もございませう。

## 健全な男女共同参画社会をめざす会



会長 青井美智子

〒791-0221 東温市上村甲218番地

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-1111

<http://www.mezasukai.com/>

メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp)

